

ちょいワルオヤジの諸国漫遊記

第七回 2025 年晩夏 憧れのアメリカは

大和川 一路

何気に「イコライザー知ってますか」と聞いてみたら、「三、四回は見たよ。好きだもの」に嬉しさが込み上げてきた。デンゼル・ワシントンが好きで、何回も見ると性癖が私とそっくり。ニューヨークを舞台に社会的な正義を執行していく物語である。と云えば聞こえは良いがピストル、ナイフ、そこらあたりの物を武器にして人を殺める場面も多い。

70 歳過ぎてネットフリックスで映画を見ているなんて、私の周りにはほとんどいないのです。

じゃあ「イコライザーのドラマの方は。ロビン・マッコール役のクイーン・ラティファ」ちょっと太身で身が軽く、鉄拳一発、女性版アメリカの中村主水です。

「見てくださいよ。元 CIA で FBI も MI 6 も絡んで、アメリカの病巣にメスを入れ、麻薬や差別やいじめに喘ぐ人たちを助けるんです。アメリカは映画もドラマも上手く作りますよねえ。フェンタニルも取り上げて数年前から問題にしていたんですよ」

子供の頃は、『コンバット』『名犬ラッシー』『奥様は魔女』『逃亡者』が待ち遠しくて。私より上の方は『ルート 66』『サンセット 77』『ベンケーシー』の方が記憶に残っているのかもしれない。高校生あたりから興味は映画に移っていましたが、今日まで半世紀アメリカ文化、特に映画には相当影響を受けている。



お盆の週に町の映画祭で『日本のいちばん長い日』がやるといので、その日はあいにく大雨で長靴履いてドヤ姿で見に行った。映画好きの方の自主上映会で高齢の方、二十数人が集まっていた。1967 年日本映画と書いてあるから、中学二、三年の頃の映画と分かり、今まで見る機会がなかったが見に行って良かった。

冒頭、「大宅壮一とタイトルが出ていますが、半藤一利が原作ですから」と紹介があり、『昭和史戦後篇』を読んだばかりだから一層興味が湧いた。

半藤さんの本の最初の 10 行、昭和 20 年 8 月 15 日昼の天皇放送によって、太平洋戦争という悲惨な歴史が一応、集結しました。ただじっさいは、日本が降伏したと全世界に告げたのは日本時間の 14 日なんです。米英その他の国においては対日戦争勝利は 8 月 14 日となっています。…大岡昇平『俘虜記』にフィリピンのアメリカ兵が 14 日の晩に戦勝を祝うドンチャン騒ぎとの記載…しかし日本の私たちは、陸軍の抵

抗などいろんな事情がありまして、8月15日にポツダム宣言を受諾し戦争が終結したと知らされたわけです。

日本のいちばん長い日とは8月14日、陸軍の抵抗などいろんな事情を描いたフィルムと知った。

そもそも、この戦争は「第二次世界大戦」なのか「太平洋戦争」なのか「大東亜戦争」なのか、なんと云えばいいのだろう。昭和16年に大東亜戦争と呼称すると閣議決定されているから正式には大東亜戦争なのであろう。8月15日に戦争は終わったと思っていたが、ソ連は9月2日の降伏文書の調印まで樺太・千島を攻撃し、日本軍は武装解除の命令後も抗戦して北海道への上陸を食い止めた。北はソ連、南はアメリカに分断統治されていたら、80年後の日本はどうなっていたのだろう。学校の授業では抜け落ちたことが多かったと、お盆の時は毎年その思いが強くなっていく。

アメリカ軍に6年8カ月も占領されて、昭和28年生まれには戦後の混乱は知る由もなく映画や本に頼ることしかないのだが、それが真実なのか分からずじまいで過ごしてきた。

長じて少しは批判的に見る目も出来たかとは思いますが、子供の頃にアメリカ文化のシャワーを浴びているから抜け出すことは難しい。戦勝国が正義となって日本人は歴史の評価に自虐的過ぎやしないかとの思いが強くなっている。

先の参議院選で投票率が6%も上がったことは地殻変動の始まりのように感じている。

時は随分流れたが、こんなことがあった。職場の後輩が『トップガン』を観て、トム・クルーズの真似を始めた。まだ20代の青年である。真似と云ってもあのかっこよさの雰囲気だけだが、ある時英語の勉強を始めて数年後、本当にニューヨークに行ってしまった。

今どこで何をしているのか知らないが、一本のフィルムが人生を変えてしまう事もある。もうその頃は40代の自分にはそんなエネルギーは無くなっていたが、憧れのアメリカの地を踏めたのは会社におかげ。仕事2割、観光8割ぐらいの出張である。

ミシガン湖に浮かぶ摩天楼をボンヤリ見上げ、ナイアガラの農協さんの団体に恥ずかしさも感じ、アメリカ文明と大自然に複雑な気分を懐き大陸を見て巡った。



さて、今では寂れたようにも見えるこの町はどこでしょう？

映画好きなら分かるかもしれません。『アンタタッチャブル』の舞台。カポネは酒の密造、賭博、売春で儲けて市政を牛耳って、最後はエリオット・ネスに所得税法違反で逮捕された。

ケビンコスナーよりもショーンコネリーの渋さが良くて、あんなジジイになりたいなあと思ったこともある。現実の人物との乖離が大きいとの指摘もありましたが…。

この町がシカゴと分かるのは『逃亡者』

ジェラード警部はキンブル博士からの電話の向こうに、この電車の音を聞き分けてシカゴにいることを突き止めた。

もう一度シカゴに行ってみたいと思うのは多分記憶の膨張ともいうような現象で、幼き頃のこの記憶。テレビドラマの『船場』の後、『細うで繁盛記』より前だったのか、『堂島』の影響かと。堂島と云えば米相場、銭の世界のドロドロ物語。世界初の先物取引と記憶していましたが、実はオランダのチューリップ先物が先らしい。

穀物の世界最大取引所マーカントイルに行ってみたいと何となく頭に残っているのは『堂島』の記憶に被さって、叔父さん達が正月に家に集まって雀卓を囲みながら、「北炭だ、三光汽船だ、選挙があるから仕手が入るぞ」「人の行く裏に道あり花の山」「山高ければ谷深し」。なんてそんな大人の会話が面白く、相場事を毛嫌いするどころか親近感さえ覚えて、社会を知る窓が開いていた環境だったようです。「おまえも入れ」と家庭麻雀の域を越えた勝負の世界で相場情報を聞いていた。耳学問で日本の会社を沢山覚えた。

北海道炭礦汽船、東京芝浦電気、鐘淵紡績。みんな漢字の会社で変遷を感じます。

ニューヨークのメトロポリタン美術館にも行ってみたい。日本では見ることが出来ないコレクションがあるらしい。フェルメール、クリムト、ルノワール、ゴッガン、ゴッホ、モネ、ミロ、ピカソに浮世絵に若冲に酒井抱一にキリがない。

サザビースかクリスティーズのオークションで、40年ほど前にゴッホの「ひまわり」を安田火災が58億円で競り落とした。別世界の出来事で、当時は世界に嫌われる日本のイメージが強くて、いい印象ではありませんでした。

「ひまわり」を今オークションに出せば500億か5億円か見当もつきませんね。

「銭の花は清らかに白い。だが薔は血がにじんだように赤く、その香りは汗の匂いがする」そのセリフ、『細うで繁盛記』で新珠三千代さん云ってましたが何回読んでもなんじゃコレ。今ではメトロポリタン美術館の名画に銭の匂いがするんですよ。

もう叶わぬ夢と思っていますが、アメリカに行くことは醒めてしまった夢かもしれません。よく分かりませんが…。でもやっぱりお宝名画は見てみたい。



バンクオブアメリカ本店前のオブジェ「銀行員の心臓」です。その心は、「黒くて堅くて冷たい」。この真っ黒なおむすびの形をしたオブジェの写真を見るたびに、親しかった友人がバブルの最中に会社を辞めて旅立っていったことが蘇ります。

どんな会社でも職業的な倫理が求められますが、一様な倫理ではなくて職業ごとに、あるいは国柄で倫理観は違う様で、後年その輪郭がハッキリしてきた。床柱を背にするどころか、冷たく固まったしまった心から鼓動が聞こえなくなってしまうのでしょ。失われた10年が30年にもなり、日本はアメリカの金融資本に買われまくって株価は機関の動向次第、仕手なんて死語になった。アメリカ大統領が「我々が搾取する番だ！」と云っていましたが、「ちょっと待ってよ、認識が違うんじゃない」と返したい。

『フォレスト・ガンプ』。心が疲れた時にはフォレスト・ガンプ。一押しでもないのですが、アメリカの1950年代から80年代のフィルムでケネディ、ジョンソン、ベトナム戦争、ヒッピー、エルビス、ジョンレノン、ピンポン外交、ニクソン、アップルなど実写が出てきて面白く、フォレストと自分を重ねて何回も見ると。

日本は90年にピークをうって「山高ければ谷深し」と格言通りをやってしまった。

仕事を済ませた後はアメリカ漫遊いい所に行けました。ならば良いのだけれど感動の感覚が残っていない。ケンタッキーは緑でナイアガラは白。サンフランシスコは赤茶系。こんな印象しか残っていない。



ケンタッキーのメーカーズマークの蒸留所で、「バーボンの封蝋は匠の技で、赤ダラリの形状でどの職人か分かる」と聞いた。

日本ならば日本酒の杜氏さん自慢して、日本文化は悠久の歴史を感じますなあとなる。

旅行団の一人がバーボンを飲み干そうとしていた。この桶見てください。私達、大きさを測る物差しが壊れてしまって、自分がどんなに小さい人間なのかも測れない。

バーボンの歴史を紐解くとアメリカ史が垣間見えてきます。メーカーズマークの今の株主さんは誰でしょう。帰国後、バーボン通にならんばかりに飲んでいた。美空ひばりさんや西川峰子さんの舞台を見ようものなら、誰もがファンになってしまうのと同じ原理。

「ところで結局、あなたのアメリカはどうだったの」

「いやあ、みんな大きくてね。どこにいるのか分からなかった」

「やっぱり味噌が小さいわ。見たものの全部が過去脳の方に行っちゃてるからそうなるの。まだ見ぬ所に行きたがっているじゃない。『トップガン/マーベリック』に感動はなかったでしょう、同じよ。それより養老孟子さんの動画見てみなさいよ。概念の話してるから」

どうして養老さんが出てくるのか、誰かに聞いたのだろう。それで、素直に見ました。

「 $a=b$ は $b=a$ じゃない」。何を馬鹿な、考えた事もない。置き換えてみると、(昔見た)映画やドラマ＝アメリカはアメリカ＝むかし見た映画やドラマじゃない、となる。

確かに納得、こういう概念なのかとウロコがポロリ。

もうひとつ謎が解けた。小学校の時にそろばん8級でこんがらがってやめたこと。

「 $2x=6$ $x=3$ 数学につまずく子がでるのは数字に文字が入る時」と云うお話し。

確かに確かに、掛算が始まってソロバン教室を辞めたのだ。

「屁理屈にもなってないことゆーなよ。私は段持ち、あなたはパーチク。はい頑張ってる」